

平成 19 (2007) 年度「NGO 長期スタディ・プログラム」最終報告書

氏名：村沢 繭子

日本側所属団体：特定非営利活動法人ジェン（JEN）

海外研修先名：Danish Demining Group (DDG)

研修期間： 2007 年 11 月 13 日 ～ 2008 年 3 月 30 日

研修テーマ：広報・資金調達のための組織内連携

【研修期間全般を通じて行った業務および活動】

DRC ウェブサイトの更新記事、ニュースリリース執筆
CPH 本部とのリエゾン業務
広報関連ビジターのアテンド、調整、報告書作成等
モニタリング評価のフレームワークづくりについての調査、ドラフト
グラントマネジメント業務として、カナダ政府資金の消化状況管理
ナショナルスタッフのレポート作成監督

【具体的な研修内容】

- ・ 本部での広報資金調達業務に必要な「一次情報」を効果的に共有するために、フィールド事務所の視点を学ぶ（広報関連業務、プログラムマネジャーの資金調達業務補佐等）
- ・ フィールド事務所における資金調達（主に UN、オーストリア、カナダ、オランダ政府資金等）
- ・ スタッフ間での資金状況の共有（定例ミーティング等を通じた、プログラム担当者との情報&課題共有）
- ・ 本部とフィールド事務所との連携（コペンハーゲンからの出張者アテンド、本部広報担当とのリエゾン等）

【本研修の成果】

フィールド事務所レベルでの資金調達について、その重要性を確認できた。プログラムマネジャー、オペレーションマネジャー、ロジスティクスにアドミニストレーションと、効果的な分業を可能にするのはやはり十分な人件費の確保とドナーの理解であると改めて実感し、今後個人企業含めたドナーにこの部分を理解共有してもらえようような広報に取り組みたい。

また、ジュバ事務所で書いたニュースリリース原稿をコペンハーゲン本部に勤務するジャーナリストに添削⇒掲載してもらう機会を得て、改めて現地事務所の持つ情報の多さと、それを整理して伝えることの難しさを感じた。研修前と研修後はこれと逆の立場で原稿執筆を依頼&サポートすることになるので、今後はより現地事務所の立場に近い視点でアシストすることができるだろう。

業務を円滑に進めるための健康維持について、然るべきインフラを重視する姿勢を学んだ。ジュバ

には JEN を含めて日本の NGO も多く活動しているが、やはりワークライフバランスの点ではまだ出遅れていると感じる。これは NGO 側だけの課題ではなく、それを支えるドナーの意識の差異でもある。これまでも感じて来たことではあるが、実際にジュバでのフィールド事務所のインフラ格差を目の当たりにしたことで、プロとしての業務を支えるにあたって不可欠な点として認識するようになった。

本部とフィールド事務所の関係において、DDG と DRC という実質上二つの違う団体それぞれの現状や今後の展望を見ることができた。内部コミュニケーションを重視している姿勢については、DRC > DDG という印象であり、広報にどれだけの重要性を置くかは、事業の性格と資金の出所にも関係すると感じた。また、DDG では本部とのリエゾンに加えて、フィールドで実際に写真を撮影する現地スタッフとの連携も推進することができた。

JEN の事務所もある地域だったので、DDG とそれ以外の団体、機関と JEN とのネットワーキングにも貢献できた。

【研修テーマや本研修で求めていたことが達成できましたか。達成できなかった場合は、その理由もお書きください。】

全体として、フィールド事務所の視点で業務を経験するという点において、ジュバをベースに事業地への出張も含めて貴重な時間を過ごすことができた。

また、今回の研修の大きな関心事であった、フィールドの一次情報を広報や資金調達に活かすための円滑な内部コミュニケーションという点においては、おおいに学ぶべき点もあると同時に、やはり研修先でも同様の課題があることを実感した。JEN がこれまで数年をかけて取り組んでいる課題と、その解決の方向性は改めて良い方へ向かっているということも確認できたのは収穫だった。

【本研修成果を自団体の能力強化にどのように活かそうと考えますか】

研修前と同じポストに戻るようになるので、これまで以上に、広報とフィールド事務所との円滑な協力体制を整備していきたい。

特に、研修先のような大きな資金力はすぐに実現できるわけではなく、実際の変化に向けての地道な努力が実を結ぶまでの間、スタッフがチームとして持ちこたえられる体制について、広報の立場から貢献していく必要がある。

【今後の課題】※本プログラムや事務局側に対する要望等でも構いません

募集から派遣までのリードタイムの短さは、改善点として指摘したい。

今回は派遣内定の時点で7月末と既に夏休み時期にさしかかっており、研修先候補との連絡調整は、事実上それから約2ヶ月間ほど、大きな動きが期待できないことが明白であった。10月派遣を前提とした計画であったにもかかわらず、スケジュールに無理があったと感じる。

また、準備から実施までのスケジュールやタスクについて、募集時点または遅くとも内定時点で明文化したものを提示していただければ、準備期間がより円滑に進んだのではないかと。今回は、内定から派遣までに必要な提出書類やプログラム自体の英文ガイドライン、月次報告書フォーマットなどが全てこちらから確認の連絡をしなければ提供されなかった。

研修先で必要となる支出について、ガイドラインに記載されていない点が多くあった。研修先団体としては、ガイドラインにない規定があるという時点で混乱を生じる原因となった。

また、この支出に関しては、研修先団体のレターヘッドで JANIC に対する正式文書として申請するよう指定されていた。しかしその後この件に関する研修先団体との直接連絡については JANIC はタッチせず、研修生の所属団体のみが行わなければならないという点が、先方には明確さと適切さに欠ける対応という印象を与えてしまった。

事前準備を円滑に適切に行うことができれば、受入先との関係も良好に保つことができ、ネットワーキングや能力強化という研修目的もより効果的に達成できると感じる。

また、研修先からの誤解を避けるために、ガイドラインとプログラム説明については、英文で日本語と同じ情報量のものがあったほうが良い。